

社会福祉士養成課程のカリキュラム (令和元年度改正)

1. 医学概論	1
2. 心理学と心理的支援	3
3. 社会学と社会システム	5
4. 社会福祉の原理と政策	8
5. 社会福祉調査の基礎	11
6. ソーシャルワークの基盤と専門職	14
7. ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	16
8. ソーシャルワークの理論と方法	18
9. ソーシャルワークの理論と方法(専門)	21
10. 地域福祉と包括的支援体制	23
11. 福祉サービスの組織と経営	27
12. 社会保障	29
13. 高齢者福祉	31
14. 障害者福祉	34
15. 児童・家庭福祉	37
16. 貧困に対する支援	41
17. 保健医療と福祉	44
18. 権利擁護を支える法制度	46
19. 刑事司法と福祉	49
20. ソーシャルワーク演習	52
21. ソーシャルワーク演習(専門)	54
22. ソーシャルワーク実習指導	56
23. ソーシャルワーク実習	57

令和2年3月6日

社会・援護局福祉基盤課 福祉人材確保対策室

6 ソーシャルワークの基盤と専門職 (30)

ねらい (目標)
①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。
②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。
③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。

教育に含むべき事項 (内容)

教育に含むべき事項	想定される教育内容の例	
①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ	1 社会福祉士及び介護福祉士法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定義、義務 ・ 法制度成立の背景 ・ 法制度見直しの背景
	2 精神保健福祉士法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定義、義務 ・ 法制度成立の背景 ・ 法制度見直しの背景
	3 社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性	
②ソーシャルワークの概念	1 ソーシャルワークの定義	<ul style="list-style-type: none"> ・ ソーシャルワーク専門職のグローバル定義
③ソーシャルワークの基盤となる考え方	1 ソーシャルワークの原理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会正義 ・ 人権尊重 ・ 集団的責任 ・ 多様性の尊重
	2 ソーシャルワークの理念	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当事者主権 ・ 尊厳の保持 ・ 権利擁護 ・ 自立支援 ・ ソーシャルインクルージョン ・ ノーマライゼーション
④ソーシャルワークの形成過程	1 ソーシャルワークの形成過程	<ul style="list-style-type: none"> ・ 慈善組織協会 ・ セツルメント運動 ・ 医学モデルから生活モデルへ ・ ソーシャルワークの統合化
⑤ソーシャルワーク	1 専門職倫理の概念	

の倫理	2 倫理綱領	<ul style="list-style-type: none"> ・ ソーシャルワーカーの倫理綱領 ・ 社会福祉士の倫理綱領 ・ 精神保健福祉士の倫理綱領
	3 倫理的ジレンマ	

7 ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）（30）

ねらい（目標）
①社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。
②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。
③マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。
④総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。

教育に含むべき事項（内容）

教育に含むべき事項	想定される教育内容の例	
①ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲	1 ソーシャルワーク専門職の概念と範囲	
	2 社会福祉士の職域	<ul style="list-style-type: none"> ・行政関係 ・福祉関係（高齢者領域、障害者領域、児童・母子領域、生活困窮者自立支援・生活保護領域等） ・医療関係 ・教育関係 ・司法関係 ・独立型事務所 等 ・社会福祉士の職域拡大
	3 福祉行政等における専門職	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉事務所の現業員、査察指導員、社会福祉主事、児童福祉司、身体障害者福祉司、知的障害者福祉司 等
	4 民間の施設・組織における専門職	<ul style="list-style-type: none"> ・施設長、生活相談員、社会福祉協議会の職員、地域包括支援センターの職員、スクールソーシャルワーカー、医療ソーシャルワーカー 等
	5 諸外国の動向	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米諸国の動向 ・その他諸外国における動向
②マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク	1 マイクロ・メゾ・マクロレベルの対象	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロ・メゾ・マクロレベルの意味 ・マイクロ・メゾ・マクロレベルの対象
	2 マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソ	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロ・メゾ・マクロレベルへの介入 ・マイクロ・メゾ・マクロレベルの連関性

	ーシャルワーク	・マイクロ・メゾ・マクロレベルの支援の実 際
③総合的かつ包括的 な支援と多職種連携 の意義と内容	1 ジェネラリストの 視点に基づく総合的 かつ包括的な支援の 意義と内容	・多機関による包括的支援体制 ・フォーマル・インフォーマルな社会資源 との協働体制 ・ソーシャルサポートネットワーキング
	2 ジェネラリストの 視点に基づく多職種 連携及びチームアプ ローチの意義と内容	・多職種連携及びチームアプローチの意 義 ・機関・団体間の合意形成と相互関係 ・利用者、家族の参画

8 ソーシャルワークの理論と方法 (60)

ねらい (目標)
①人と環境との相互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。
②ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。
③ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。
④コミュニティワークの概念とその展開について理解する。
⑤ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。

教育に含むべき事項 (内容)

教育に含むべき事項	想定される教育内容の例	
①人と環境との相互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク	1 システム理論	・ 一般システム理論、サイバネティクス、自己組織性
	2 生態学理論	
	3 バイオ・サイコ・ソーシャルモデル	
	4 マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク	
②ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ	1 ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医学モデル ・ 生活モデル ・ ストレングスモデル ・ 心理社会的アプローチ ・ 機能的アプローチ ・ 問題解決アプローチ ・ 課題中心アプローチ ・ 危機介入アプローチ ・ 行動変容アプローチ ・ エンパワメントアプローチ ・ ナラティブアプローチ ・ 解決志向アプローチ
③ソーシャルワークの過程	1 ケースの発見	<ul style="list-style-type: none"> ・ アウトリーチ ・ スクリーニング
	2 インテーク	・ インテークの意義、目的、方法、留意点

		・契約
	3 アセスメント	・アセスメントの意義、目的、方法、留意点
	4 プランニング	・プランニングの意義、目的、方法、留意点 ・効果と限界の予測 ・支援方針・内容の説明・同意
	5 支援の実施	・支援の意義、目的、方法、留意点
	6 モニタリング	・モニタリングの意義、目的、方法、留意点 ・効果測定
	7 支援の終結と事後評価	・支援の終結と事後評価の目的、方法、留意点
	8 アフターケア	・アフターケアの目的、方法、留意点
④ ソーシャルワークの記録	1 記録の意義と目的	・ソーシャルワークの質の向上 ・支援の継続性、一貫性 ・機関の運営管理 ・教育、研究 ・アカウンタビリティ
	2 記録の方法と実際	・記録の文体（叙述体、要約体、説明体等） ・項目式（フェースシート等） ・図表式（ジェノグラム、エコマップ等）
⑤ ケアマネジメント	1 ケアマネジメントの原則	・ケアマネジメントの歴史 ・適用と対象
	2 ケアマネジメントの意義と方法	・ケアマネジメントの意義 ・ケアマネジメントのプロセス ・ケアマネジメントのモデル
⑥ 集団を活用した支援	1 グループワークの意義と目的	・グループダイナミクス
	2 グループワークの原則	・個別化の原則、受容の原則、参加の原則、体験の原則、葛藤解決の原則、制限の原則、継続評価の原則
	3 グループワークの展開過程	・準備期、開始期、作業期、終結期
	4 セルフヘルプグループ	・共感性、分かち合い ・ヘルパーセラピー原則

		<ul style="list-style-type: none"> ・体験的知識 ・役割モデルの習得 ・援助者の役割
⑦コミュニティワーク	1 コミュニティワークの意義と目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルインクルージョン ・住民参加
	2 コミュニティワークの展開	<ul style="list-style-type: none"> ・地域アセスメント ・地域課題の発見・認識 ・実施計画とモニタリング ・組織化 ・社会資源の開発 ・評価と実施計画の更新
⑧スーパービジョンとコンサルテーション	1 スーパービジョンの意義、目的、方法	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパービジョンの定義 ・スーパーバイザーとスーパーバイジーの関係 ・スーパービジョンの機能 ・スーパービジョンの形態と方法
	2 コンサルテーションの意義、目的、方法	<ul style="list-style-type: none"> ・コンサルテーションの定義 ・コンサルタントとコンサルティーの関係 ・コンサルテーションの方法

9 ソーシャルワークの理論と方法（専門）（60）

ねらい（目標）
①社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。
②支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。
③社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。
④個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。

教育に含むべき事項（内容）

教育に含むべき事項	想定される教育内容の例	
①ソーシャルワークにおける援助関係の形成	1 援助関係の意義と概念	・ソーシャルワーカーとクライアントシステムの関係
	2 援助関係の形成方法	・自己覚知と他者理解 ・コミュニケーションとラポール
	3 面接技術	・面接の意義、目的、方法、留意点 ・面接の場面と構造 ・面接の技法
	4 アウトリーチ	・アウトリーチの意義、目的、方法、留意点 ・アウトリーチを必要とする対象 ・ニーズの掘り起こし
②ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発	1 社会資源の活用・調整・開発	・社会資源の活用・調整・開発の意義、目的、方法、留意点 ・ニーズの集約、提言、計画策定、実施、評価
	2 ソーシャルアクション	・ソーシャルアクションの意義、目的、方法、留意点
③ネットワークの形成	1 ネットワーキング	・ネットワーキングの意義、目的、方法、留意点 ・セーフティネットの構築とネットワーキング

		<ul style="list-style-type: none"> ・家族や住民、サービス提供者間のネットワーキング ・重層的な範囲（ミクロ・メゾ・マクロ）におけるネットワーキング ・多様な分野の支援機関とのネットワーキング
	2 コーディネーション	・コーディネーションの意義、目的、方法、留意点
④ ソーシャルワークに関連する方法	1 ネゴシエーション	・ネゴシエーションの意義、目的、方法、留意点
	2 ファシリテーション	・ファシリテーションの意義、目的、方法、留意点
	3 プレゼンテーション	・プレゼンテーションの意義、目的、方法、留意点
⑤ カンファレンス	1 カンファレンス	<ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンスの意義、目的、留意点 ・カンファレンスの運営と展開
⑥ 事例分析	1 事例分析	・事例分析の意義、目的
	2 事例検討、事例研究	・事例検討、事例研究の意義、目的、方法、留意点
⑦ ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際	1 総合的かつ包括的な支援の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・多様化、複雑化した生活課題への対応 ・今日的な地域福祉課題への対応 ・分野、領域を横断する支援
	2 家族支援の実際	<ul style="list-style-type: none"> ・家族が抱える複合的な生活課題 ・家族支援の目的、方法、留意点
	3 地域支援の実際	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が抱える課題 ・多機関協働 ・地域住民との協働 ・地域アセスメント
	4 非常時や災害時支援の実際	<ul style="list-style-type: none"> ・非常時や災害時の生活課題 ・非常時や災害時における支援の目的、方法、留意点

10 地域福祉と包括的支援体制（60）

ねらい（目標）
<p>①地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。</p> <p>②地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。</p> <p>③地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解する。</p> <p>④地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。</p> <p>⑤包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解する。</p> <p>⑥地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。</p>

教育に含むべき事項（内容）

教育に含むべき事項	想定される教育内容の例	
①地域福祉の基本的な考え方	1 地域福祉の概念と理論	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の概念、地域福祉の構造と機能 ・福祉コミュニティ論、在宅福祉サービス論、ボランティア・市民活動論 ・共生社会
	2 地域福祉の歴史	<ul style="list-style-type: none"> ・セツルメント、COS、社会事業、社会福祉協議会、民生委員、児童委員、共同募金、在宅福祉、施設の社会化、地方分権、社会福祉基礎構造改革、地域自立生活、地域包括ケア、地域共生社会
	3 地域福祉の動向	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティソーシャルワーク、コミュニティサービス、地域再生、ケアリングコミュニティ
	4 地域福祉の推進主体	<ul style="list-style-type: none"> ・地方自治体 ・NPO、市民活動組織、中間支援組織 ・町内会、自治会等地縁組織 ・民生委員、児童委員、主任児童委員、保護司 ・当事者団体 ・社会福祉協議会 ・共同募金 ・企業

	5 地域福祉の主体と形成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当事者、代弁者 ・ ボランティア ・ 市民活動、住民自治、住民主体 ・ 参加と協働、エンパワメント、アドボカシー ・ 福祉教育
②福祉行財政システム	1 国の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法定受託事務と自治事務
	2 都道府県の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉行政の広域的調整、事業者の指導監督
	3 市町村の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ サービスの運営主体 ・ 条例 ・ 社会福祉審議会
	4 国と地方の関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地方分権、地方自治、地域主権、地方創生
	5 福祉行政の組織及び専門職の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉事務所、児童相談所、身体障害者更生相談所、知的障害者更生相談所、精神保健福祉センター、婦人相談所、地域包括支援センター 等 ・ 福祉事務所の現業員・査察指導員、児童福祉司、身体障害者福祉司、知的障害者福祉司、精神保健福祉相談員 等
	6 福祉における財源	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国の財源、地方の財源、保険料財源 ・ 民間の財源
③福祉計画の意義と種類、策定と運用	1 福祉計画の意義・目的と展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉行財政と福祉計画の関係 ・ 福祉計画の歴史 ・ 福祉計画の種類（地域福祉計画、老人福祉計画、介護保険事業計画、障害福祉計画、子ども・子育て支援事業計画、民間の福祉計画等）
	2 市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域福祉と計画行政の関係 ・ 市町村地域福祉計画及び都道府県地域福祉支援計画の定義、機能 ・ 地域福祉活動計画との関係
	3 福祉計画の策定過程と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題把握・分析 ・ 協議と合意形成
	4 福祉計画の実施と	<ul style="list-style-type: none"> ・ モニタリング

	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ サービス評価 ・ プログラム評価
④ 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題	1 地域社会の概念と理論	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域社会の概念 ・ 地域社会の理論
	2 地域社会の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世帯数、世帯構成 ・ 過疎化、都市化、地域間格差 ・ 外国人住民の増加
	3 多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・ ひきこもり、ニート、8050 問題、ダブルケア、依存症、多文化共生、自殺、災害等
	4 地域福祉と社会的孤立	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的孤立、社会的排除 ・ セルフネグレクト
⑤ 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制	1 包括的支援体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 包括的支援体制の考え方 ・ 包括的支援体制の展開
	2 地域包括ケアシステム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域包括ケアシステムの考え方 ・ 地域包括ケアシステムの展開 ・ 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの展開 ・ 子育て世代包括支援センター
	3 生活困窮者自立支援の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活困窮者自立支援制度と理念 ・ 自立相談支援機関による支援過程と方法、実際 ・ 伴走型の支援と対象者横断的な包括的相談支援 ・ 個人および世帯の支援 ・ 居住支援、就労支援、家計支援、子どもの学習・生活支援
	4 地域共生社会の実現に向けた各種施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多機関協働による包括的支援体制 ・ 住民に身近な圏域における相談支援体制
⑥ 地域共生の実現に向けた多機関協働	1 多機関協働を促進する仕組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合相談 ・ 各種相談機関の連携 ・ 協議体 ・ 地域ケア会議 ・ 地域包括支援センター運営協議会 ・ 要保護児童対策地域協議会

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者自立支援協議会
	2 多職種連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健・医療・福祉に関わる多職種連携 ・ 生活支援全般に関わるネットワーク ・ 多職種連携等における個人情報保護
	3 福祉以外の分野との機関協働の実際	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的企業 ・ 農福連携 ・ 観光、商工労働等との連携 ・ 地方創生
⑦災害時における総合的かつ包括的な支援体制	1 非常時や災害時における法制度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害対策基本法、災害救助法 ・ 各自治体等の避難計画
	2 非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時要援護者支援 ・ BCP（事業継続計画） ・ 福祉避難所運営 ・ 災害ボランティア
⑧地域福祉と包括的支援体制の課題と展望	1 地域福祉ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガバナンスの考え方 ・ 多様化・複雑化した課題と多機関協働の必要性 ・ 社会福祉法における包括的な支援体制づくり ・ 住民の参加と協働、住民自治 ・ プラットフォームの形成と運営
	2 地域共生社会の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域共生社会 ・ 地域力の強化、包括的支援体制

11 福祉サービスの組織と経営 (30)

ねらい (目標)
①ソーシャルワークにおいて必要となる、福祉サービスを提供する組織や団体の概要について理解する。
②社会福祉士に求められる福祉サービスの組織と沿革、経営の視点と方法を理解する。
③福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論、労働者の権利等について理解する。
④福祉サービスに求められる福祉人材マネジメントについて理解する。

教育に含むべき事項 (内容)

教育に含むべき事項	想定される教育内容の例	
①福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割	1 福祉サービスを提供する組織	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉施設の現状や推移 ・各種法人の特性 ・非営利法人、営利法人 ・社会福祉法人、NPO 法人、一般社団法人、株式会社 ・福祉サービスと連携するその他の法人 ・法人格を有しない団体(ボランティア団体)等
	2 福祉サービスの沿革と概況	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービスの歴史 ・社会福祉基礎構造改革 ・社会福祉法人制度改革 ・公益法人制度改革
	3 組織間連携と促進	<ul style="list-style-type: none"> ・公益的活動の推進 ・多機関協働 ・地域連携、地域マネジメント
②福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論	1 組織運営に関する基礎理論	<ul style="list-style-type: none"> ・組織運営の基礎 ・組織における意思決定 ・問題解決の思考と手順 ・モチベーションと組織の活性化
	2 集団の力学に関する基礎理論	<ul style="list-style-type: none"> ・チームアプローチと集団力学 ・チームの機能と構成
	3 リーダーシップに関する基礎理論	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップ、フォロワーシップ ・リーダーの機能と役割
③福祉サービス提供	1 経営体制	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会、評議会等の役割

組織の経営と実際		<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営戦略、事業計画 ・ マーケティング
	2 福祉サービス提供 組織のコンプライア ンスとガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的ルールの遵守 ・ 説明責任の遂行 ・ 業務管理体制、内部管理体制の整備 ・ 権限委譲と責任のルール化
	3 適切な福祉サービ スの管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 品質マネジメントシステム ・ PDCA と SDCA 管理サイクル ・ リスクマネジメント体制 ・ 権利擁護制度と苦情解決体制 ・ 福祉サービスの質と評価
	4 情報管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人情報保護法 ・ 公益情報保護法 ・ 情報公開、パブリックリレーションズ
	5 会計管理と財務管 理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 財務諸表の理解、財務規律の強化 ・ 自主財源、寄付金、各種制度に基づく報酬 ・ 資金調達、ファンドレイジング ・ 資金運用、利益管理
④福祉人材のマネジ メント	1 福祉人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ OJT、OFF-JT、SDS ・ 職能別研修と階層別研修 ・ スーパービジョン体制 ・ キャリアパス
	2 福祉人材マネジメ ント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標管理制度 ・ 人事評価システム ・ 報酬システム
	3 働きやすい労働環 境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 労働三法及び労働関係法令 ・ 育児休業、介護休業 等 ・ メンタルヘルス対策 ・ ハラスメント対策

15 児童・家庭福祉 (30)

ねらい (目標)
①児童が権利の主体であることを踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について理解する。
②児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について理解する。
③児童や家庭福祉に係る法制度について理解する。
④児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について理解する。
⑤児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を理解する。

教育に含むべき事項 (内容)

教育に含むべき事項	想定される教育内容の例	
①児童・家庭の定義と権利	1 児童・家庭の定義	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の定義、家庭の定義 ・児童と家庭の関係
	2 児童の権利	<ul style="list-style-type: none"> ・児童憲章 ・児童権利宣言 ・児童の権利に関する条約
②児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境	1 児童・家庭の生活実態	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイクル、家族形態 ・子育て (出産、育児、保育、家事) ・住居、就労、経済、教育 ・課外活動、遊び
	2 児童・家庭を取り巻く社会環境	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ ・児童虐待 ・ひとり親家庭 ・家庭内 DV ・社会的養護
③児童・家庭福祉の歴史	1 児童福祉の理念	<ul style="list-style-type: none"> ・健全育成 ・児童の権利 ・最善の利益
	2 児童観の変遷	<ul style="list-style-type: none"> ・保護の対象としての児童 ・権利の主体としての児童
	3 児童・家庭福祉制度の発展過程	<ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉法制定 ・措置と契約 ・最善の利益
④児童・家庭に対する	1 児童福祉法	<ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉法の概要

法制度		<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童相談所 ・ 児童福祉施設の種類、里親制度、障害児支援、児童福祉制度に係る財源、児童福祉サービスの最近の動向
	2 児童虐待の防止等に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童虐待の防止等に関する法律の概要 ・ 児童虐待の定義、虐待予防の取組、虐待発見時の対応
	3 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）	<ul style="list-style-type: none"> ・ DV防止法の概要 ・ DV防止法の目的、DVの定義、家庭内暴力発見時の対応
	4 母子及び父子並びに寡婦福祉法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 母子及び父子並びに寡婦福祉法の概要 ・ 母子及び寡婦福祉法の目的、母子寡婦福祉資金、母子福祉施設、母子寡婦福祉制度に係る財源、母子寡婦福祉サービスの最近の動向
	5 母子保健法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 母子保健法の概要 ・ 母子保健法の目的、母子健康手帳、養育医療の種類、母子保健制度に係る財源、母子保健サービスの最近の動向
	6 児童手当法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童手当法の概要 ・ 児童手当の種類、児童手当に係る財源、児童手当制度の最近の動向
	7 児童扶養手当法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童扶養手当法の概要 ・ 児童扶養手当の種類、児童扶養手当に係る財源、児童扶養手当制度の最近の動向
	8 特別児童扶養手当等の支給に関する法律（特別児童扶養手当法）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別児童扶養手当法の概要 ・ 特別児童扶養手当の種類、特別児童扶養手当に係る財源、特別児童扶養手当制度の最近の動向
	9 次世代育成支援対策推進法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次世代育成支援対策推進基本法の概要
	10 少子化社会対策基本法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子化対策基本法の概要
	11 売春防止法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 売春防止法の概要

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 婦人相談所、婦人保護施設、婦人相談員
	12 子ども・子育て支援法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども・子育て支援法の概要
	13 就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律の概要
	14 子どもの貧困対策の推進に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの貧困対策の推進に関する法律の概要
	15 子ども・若者育成支援推進法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども・若者育成支援推進法の概要
	16 いじめ防止対策推進法	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめ防止対策推進法の概要
⑤児童・家庭に対する支援における関係機関と専門職の役割	1 児童や家庭に対する支援における公私の役割関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政の責務 ・ 公私の役割関係
	2 国、都道府県、市町村の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国の役割 ・ 都道府県の役割 ・ 市町村の役割
	3 児童相談所の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童相談所の組織 ・ 児童相談所の業務 ・ 市町村及び他の機関との連携
	4 その他の児童や家庭(女性、若者を含む)に対する支援における組織・団体の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童福祉施設 ・ 家庭裁判所 ・ 警察 ・ 婦人相談所、配偶者暴力相談支援センター、婦人保護施設 ・ 子ども家庭総合支援拠点 ・ 子ども・若者総合相談センター ・ 子育て世代包括支援センター ・ 地域若者サポートステーション
	5 関連する専門職等の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育士、医師、歯科医師、保健師、看護師、助産師、理学療法士、作業療法士、栄養士、弁護士 等 ・ 児童福祉司、児童心理司、家庭児童福祉

		<ul style="list-style-type: none"> 主事、児童指導員、母子支援員 等 ・スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー 等 ・民生委員、児童委員、主任児童委員 ・家族、住民、ボランティア 等
⑥児童・家庭に対する支援の実際	1 社会福祉士の役割	
	2 支援の実際（多職種連携を含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・児童相談所における支援 ・要保護児童対策地域協議会における支援 ・児童虐待防止にむけた支援 ・社会的養護を必要とする児童に対する支援 ・障害児に対する支援 ・ひとり親家庭に対する支援 ・児童と家庭に対する就労支援 ・子どもの貧困に対する支援 ・女性、若者への支援 ・子ども・子育て妊産婦への支援

20 ソーシャルワーク演習 (30)

ねらい	教育に含むべき事項
<p>①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。</p> <p>②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。</p> <p>③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。</p> <p>④ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する。</p>	<p>個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。</p> <p>①自己覚知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己理解と他者理解 <p>②基本的なコミュニケーション技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語的技術（質問、促し、言い換え、感情の反映、繰り返し、要約等） ・非言語技術（表情、態度、身振り、位置取り等） <p>③基本的な面接技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面接の構造化 ・場の設定（面接室、生活場面、自宅等） ・ツールの活用（電話、e-mail等） <p>④ソーシャルワークの展開過程</p> <p>事例を用いて、次に掲げる具体的なソーシャルワークの場面と過程を想定した実技指導を行うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケースの発見 ・インテーク ・アセスメント ・プランニング ・支援の実施 ・モニタリング ・支援の終結と事後評価 ・アフターケア <p>⑤ソーシャルワークの記録</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援経過の把握と管理 <p>⑥グループダイナミクスの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークの構成（グループリーダー・コリーダー・グループメンバー）

	<ul style="list-style-type: none">・グループワークの展開過程（準備期・開始期・作業期・終結期）⑦プレゼンテーション技術・個人プレゼンテーション・グループプレゼンテーション
--	---

21 ソーシャルワーク演習（専門）（120）

ねらい	教育に含むべき事項
<p>①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。</p> <p>②社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。</p> <p>③支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。</p> <p>④地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。</p> <p>⑤ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。</p> <p>⑥実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。</p> <p>⑦実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。</p>	<p><ソーシャルワーク実習前に行うこと></p> <p>個別指導並びに集団指導を通して、実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。</p> <p>①次に掲げる具体的な事例等（集団に対する事例含む。）を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虐待（児童・障害者・高齢者等） ・ひきこもり ・貧困 ・認知症 ・終末期ケア ・災害時 ・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む） <p>②①に掲げた事例等を題材として、次に掲げる具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技指導を行うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケースの発見 ・インテーク ・アセスメント ・プランニング ・支援の実施 ・モニタリング ・支援の集結と事後評価 ・アフターケア <p>③②の実技指導に当たっては、次に掲げる内容を含めること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチ ・チームアプローチ ・ネットワーキング

	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーション ・ネゴシエーション ・ファシリテーション ・プレゼンテーション ・ソーシャルアクション <p>④地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し、次に掲げる事項について実技指導を行うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握 ・地域アセスメント ・地域福祉の計画 ・組織化 ・社会資源の活用・調整・開発 ・サービスの評価 <p><ソーシャルワーク実習後に行うこと></p> <p>ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう、集団指導並びに個別指導による実技指導を行うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①事例研究、事例検討 ②スーパービジョン
--	---

22 ソーシャルワーク実習指導（90）

ねらい	教育に含むべき事項
<p>①ソーシャルワーク実習の意義について理解する。</p> <p>②社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。</p> <p>③ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。</p> <p>④実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する。</p>	<p>次に掲げる事項について個別指導及び集団指導を行うものとする。</p> <p>①実習及び実習指導の意義（スーパービジョン含む。）</p> <p>②多様な施設や事業所における現場体験学習や見学実習</p> <p>③実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解</p> <p>④実習先で関わる他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解</p> <p>⑤実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解</p> <p>⑥実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解</p> <p>⑦実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解</p> <p>⑧実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成及び実習後の評価</p> <p>⑨巡回指導</p> <p>⑩実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成</p> <p>⑪実習の評価及び全体総括会</p>

23 ソーシャルワーク実習（240）

ねらい	教育に含むべき事項
<p>①ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。</p> <p>②支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する。</p> <p>③生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。</p> <p>④施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。</p> <p>⑤総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。</p>	<p>実習生は次に掲げる事項について実習指導者による指導を受けるものとする。</p> <p>①利用者やその関係者（家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成</p> <p>②利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成</p> <p>③利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価</p> <p>④利用者やその関係者（家族・親族、友人等）への権利擁護活動とその評価</p> <p>⑤多職種連携及びチームアプローチの実践的理解</p> <p>⑥当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ</p> <p>⑦地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解</p> <p>⑧施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む。）</p> <p>⑨社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解</p> <p>⑩ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチ ・ネットワーキング ・コーディネーション ・ネゴシエーション ・ファシリテーション

	<ul style="list-style-type: none">・プレゼンテーション・ソーシャルアクション <p>ソーシャルワーク実習指導担当教員は巡回指導等を通して実習生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行うものとする。</p>
--	---

精神保健福祉士養成課程のカリキュラム

1. 医学概論	1
2. 心理学と心理的支援	3
3. 社会学と社会システム	5
4. 社会福祉の原理と政策	8
5. 地域福祉と包括的支援体制	11
6. 社会保障	16
7. 障害者福祉	18
8. 権利擁護を支える法制度	22
9. 刑事司法と福祉	26
10. 社会福祉調査の基礎	29
11. 精神医学と精神医療	32
12. 現代の精神保健の課題と支援	36
13. ソーシャルワークの基盤と専門職	40
14. 精神保健福祉の原理	42
15. ソーシャルワークの理論と方法	46
16. ソーシャルワークの理論と方法（専門）	49
17. 精神障害リハビリテーション論	55
18. 精神保健福祉制度論	58
19. ソーシャルワーク演習	61
20. ソーシャルワーク演習（専門）	63
21. ソーシャルワーク実習指導	66
22. ソーシャルワーク実習	68

令和2年3月6日

厚生労働省 社会・援護局
障害保健福祉部 精神・障害保健課

12 現代の精神保健の課題と支援（60）

ねらい（目標）
①現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。
②精神保健の基本的考え方を理解する。
③現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。
④精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。
⑤国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。

教育に含むべき事項（内容）

教育に含むべき事項	想定される教育内容の例	
①現代の精神保健分野の動向と基本的考え方	1 精神保健の動向	・衛生行政報告例、地域保健・健康増進事業報告 ・受療率に見る課題（受療格差と受療バリア、受療までの期間(DUI)と受療促進）
	2 精神保健活動の三つの対象	・支持的精神保健 ・積極的精神保健 ・総合的精神保健
	3 精神の健康に関する心的態度	・否認、受容、回復
	4 生活と嗜癖	・自己治療説 ・依存症
②家族に関連する精神保健の課題と支援	1 家族関係における暴力と精神保健	・DV
	2 出産・育児をめぐる精神保健	・育児困難、子育て不安 ・児童虐待 ・発達障害と療育をめぐる精神保健
	3 介護をめぐる精神保健	・ケアラー ・不適切ケア ・高齢者虐待
	4 社会的ひきこもりをめぐる精神保健	
	5 家族関係の課題	・支配・被支配、依存・共依存関係

		・ 家族問題を相談する機関
	6 グリーフケア	・ 死別経験と喪失経験 ・ 複雑性悲嘆
	7 精神保健支援を担う機関	
③精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ	1 学校教育における精神保健的課題	・ いじめ、学校における暴力、自殺・不登校、学級崩壊、非行問題
	2 教員の精神保健	・ 燃え尽き症候群
	3 関与する専門職と関係法規	・ 学校保健安全法 ・ いじめ防止対策推進法
	4 スクールソーシャルワーカーの役割	
	5 学校精神保健にかかわる社会資源	
④精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ	1 現代日本の労働環境	・ 過労働と過労自殺
	2 産業精神保健とその対策	・ ストレスチェックと職場環境改善 ・ 職場復帰支援
	3 職場のメンタルヘルスのための相談	・ ハラスメント相談 ・ 従業員援助プログラム（EAP） ・ 企業内保健相談活動
	4 職場内の問題を解決するための機関及び関係法規	・ 労働基準法 ・ 労働安全衛生法
⑤精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ	1 災害被災者の精神保健	・ こころのケアチーム ・ 支援者のケア ・ DPAT
	2 犯罪被害者の支援	
	3 自殺予防	・ ゲートキーパー ・ 自傷行為、自殺未遂、自死遺族
	4 身体疾患に伴う精神保健	
	5 貧困問題と精神保健	・ 貧困とストレス ・ 新たな貧困問題（子どもや女性）に伴う精神保健
	6 社会的孤立	・ ホームレスと精神保健

		・セルフネグレクト
	7 LGBT と精神保健	
	8 他文化に接することで生じる精神保健上の問題	・異文化ストレス ・文化差に配慮した支援
	9 反復違法行為と精神保健	・違法薬物使用・盗癖・性加害・放火・ ストーカー行為の反復 ・司法領域との連携
⑥精神保健に関する発生予防と対策	1 精神保健の予防の考え方	
	2 アルコール問題に対する対策	・社会問題としての依存症対策 ・個人及び家族への依存症対策（家族相談・減酒支援・受療支援） ・SBIRTS
	3 薬物依存対策	・薬物乱用防止教育 ・ハームリダクション
	4 ギャンブル等依存対策	・多重債務、貧困、虐待、自殺、犯罪等の関連問題に関する施策との連携
	5 うつ病と自殺防止対策	・ゲートキーパー
	6 子育て支援と暴力、虐待予防	・親教育 ・子育て中の親支援グループ ・思春期の親グループ
	7 認知症高齢者に対する対策	・介護家族支援
	8 社会的ひきこもりに対する対策	・世代別関連問題
	9 災害時の精神保健に対する対策	
⑦地域精神保健に関する偏見・差別等の課題	1 関係法規	・地域保健法 ・母子保健法
	2 精神保健に関わる人材育成	
	3 精神保健における偏見	・古典的偏見 ・制御可能型偏見
⑧精神保健に関する	1 国の機関とその役	

専門職種（保健師等） と国、都道府県、市町村、 団体等の役割及び 連携	割	
	2 精神保健に係る法規	
	3 保健師等の役割と連携	
	4 地域精神保健に係わる行政機関の役割及び連携	・精神保健福祉センター、保健所、市町村（保健センター）
	5 学会や啓発団体	・いのちの電話 ・日本精神衛生会
	6 セルフヘルプグループと地域精神保健を課題とした市民団体	・家族会、当事者の会 ・市民団体
⑨ 諸外国の精神保健活動の現状及び対策	1 世界の精神保健の実情	・障害調整生命年（DALY）
	2 WHO などの国際機関の活動	・基本 10 原則 ・アルコールの有害な使用を低減するための世界戦略決議
	3 諸外国の精神保健医療の実情	

16 ソーシャルワークの理論と方法（専門）（60）

ねらい（目標）
①精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。
②精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。
③精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。
④精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解する。
⑤個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。
⑥精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解する。

教育に含むべき事項（内容）

教育に含むべき事項	想定される教育内容の例	
①精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要	1 ソーシャルワークの構成要素	原理、理念、視点、知識、技術
	2 ソーシャルワークの展開過程	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースの発見 ・インテーク ・アセスメント ・プランニング ・支援の実施 ・モニタリング ・支援の終結と事後評価 ・アフターケア ・ミクロ・メゾ・マクロレベルにおける展開
	3 精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点	<ul style="list-style-type: none"> ・人と環境の相互作用 ・精神障害及び精神保健の課題を有する人とその家族の置かれている状況 ・精神疾患・精神障害の特性を踏まえたソーシャルワークの留意点

②精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程	1アウトリーチ	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な支援にアクセスできない当事者及び家族へのアプローチ ・支援を求めない当事者層へのアプローチ ・多問題を含む家族へのアプローチ ・社会的孤立とセルフネグレクトへのアプローチ
	2インテーク	<ul style="list-style-type: none"> ・主訴の把握 ・スクリーニング ・契約
	3アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ・情報から情報分析・解釈へ ・人と環境の相互作用から捉えた問題の特性 ・本人に関する理解（発達・医療健康面・障害特性、心理・情緒面、ストレスコーピング、好みや価値観等） ・環境に関する理解（社会関係、経済状況、住環境、関連する法制度や支援内容等） ・アセスメントツール（エコマップ等）
	4援助関係の形成技法	<ul style="list-style-type: none"> ・バイステティックの援助関係を形成する技法 ・自己決定、意思決定 ・協働（パートナーシップ） ・心理的防衛機制 ・転移と逆転移 ・バウンダリー ・自己覚知
	5面接技術とその応用	<ul style="list-style-type: none"> ・面接の構造 ・面接技法（マイクロカウンセリング） ・生活場面面接 ・動機づけ面接
	6支援の展開（人、環境へのアプローチ） 事例分析	<ul style="list-style-type: none"> ・エコロジカルアプローチ（生活モデル）の展開 ・エンパメントアプローチの展開

	7 支援の展開（ケアマネジメント）	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメントのプロセス ・ケアマネジメントの実際（ACT、ストレングスモデルに基づくケアマネジメント、障害者総合支援法におけるケアマネジメント等）
③精神保健福祉分野における家族支援の実際	1 精神障害者家族の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉法と家族 ・介護家族という社会的役割 ・精神障害に関連したケアラーのニーズ ・ケアラー・ヤングケアラー支援
	2 家族理解の変遷	<ul style="list-style-type: none"> ・家族病因論 ・家族ストレス対処理論 ・家族システム論 ・家族の感情表出（EE）研究 ・ジャクソン7段階説（依存症の家族）
	3 家族支援の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・家族相談面接 ・家族療法的アプローチ ・家族関係における暴力への介入（DV 被害者支援、DV 加害者プログラム） ・家族のリカバリー ・家族のセルフヘルプグループ
④多職種連携・多機関連携（チームアプローチ）	1 連携の意義と目的	<ul style="list-style-type: none"> ・連携に関わる概念整理（連携、協働、チームアプローチ、ネットワーキング） ・ニーズの多様化、複合化 ・医療の機能分化、障害福祉サービスの事業化 ・包括的地域生活支援
	2 多職種連携・多機関連携の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者中心、当事者参加の原則 ・目標の共有 ・情報共有とプライバシー保護 ・他職種・他機関の専門性の理解と尊重 ・役割と責任の明確化
	3 チームビルディング	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップ ・メンバーシップ ・ファシリテーション ・パワーゲーム

	4 チームの形態と特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・マルチディシプリナリーチーム ・インターディシプリナリーチーム ・トランスディシプリナリーチーム
	5 連携における精神保健福祉士の役割	
	6 多職種連携・多機関連携（チームアプローチ）の実際（事例分析）	
⑤ ソーシャルアドミニストレーションの展開方法	1 ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義	
	2 組織と精神保健福祉士の関係性	<ul style="list-style-type: none"> ・組織経営（医療経営・事業経営）とソーシャルワーク ・専門職と被用者（二重のロイヤリティ）
	3 組織介入・組織改善の実践モデル	<ul style="list-style-type: none"> ・生活モデルにおける組織介入技法 ・準備段階（問題の特定） ・組織分析（アセスメント） ・導入の技法 ・関与の技法（説明法、協働法、説得法、対立活用法） ・実施と制度化
	4 組織運営管理の実際	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画の策定と実施マネジメント、サービス評価（PDCA サイクル） ・環境整備 ・資源調達 ・人材確保と人材育成
⑥ コミュニティワーク	1 精神保健福祉分野におけるコミュニティワークの意義	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活支援 ・ソーシャルインクルージョン ・精神障害にも対応した地域包括ケアシステム
	2 地域における精神保健福祉の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉に関する普及啓発 ・地域住民の精神保健福祉活動への参画 ・予防的アプローチ
	1 基本的視点	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者ニーズを軸とした展開・包括的アプローチ

⑦個別支援からソーシャルアクションへの展開		・ミクロ・メゾ・マクロの連続性と展開方法
	2 個別支援から地域における体制整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別支援会議 ・ 地域における協議会（自立支援協議会等） ・ 地域課題の発見・共有（個別支援の蓄積、ニーズ調査、地域アセスメント） ・ 地域におけるネットワークの構築 ・ 地域における社会資源の開発・改善（計画策定及びその実施、評価過程を含む） ・ 地域住民への啓発と住民参加
	3 政策提言・政策展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国及び広域圏において共通する課題の抽出・分析（メゾレベルにおける取り組みの限界） ・ 職能団体・関係団体間での課題の共有とエビデンスの集積 ・ 法制度上の課題の解決に向けたアクションプランと実施 ・ 改善・創設された法制度の活用と評価
	4 精神障害者の地域移行・地域定着に関わる展開（事例分析）	
⑧関連分野における精神保健福祉士の実践展開	1 学校・教育分野	スクールソーシャルワーク
	2 産業分野	EAP
	3 司法分野	
	4 その他	

20 ソーシャルワーク演習（専門）（90）

ねらい	教育に含むべき事項
<p>①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。</p> <p>②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。</p> <p>③精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。</p> <p>④精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。</p> <p>⑤精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。</p>	<p>以下の内容についてはソーシャルワーク実習（専門）を行う前に学習を開始し、十分な学習をしておくこと。</p> <p>以下の①から④に掲げる事項を組み合わせた精神保健福祉援助の事例（集団に対する事例を含む。）を活用し、精神保健福祉士としての実際の思考と援助の過程における行為を想定し、精神保健福祉の課題を捉え、その解決に向けた総合的かつ包括的な援助について実践的に習得すること。すべての事例において、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察することができるように指導すること。</p> <p>①領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関（入院病棟、外来、訪問、デイ・ケア、精神科以外の診療科を含む病院、診療所） ・障害福祉サービス事業所（相談支援、就労支援、生活訓練、地域移行支援、地域定着支援、自立生活援助、地域生活支援等） ・行政機関・社会福祉協議会（精神保健福祉センター、保健所、市町村、ハローワーク等） ・高齢者福祉施設（地域包括支援センター、介護療養型施設、生活施設等） ・教育機関（学校、教育委員会） ・司法（刑務所、矯正施設、保護観察所等） ・産業・労働（一般企業、EAP 機関等） ・児童（児童相談所、児童養護施設等） ・合議体（退院支援委員会、精神医療審査会、障害支援区分認定審査会、自立支援協議会、契約締結審査会、医療観察法審判期日等）

	<ul style="list-style-type: none"> ・その他（独立開業等） ②課題 <ul style="list-style-type: none"> ・社会的排除、社会的孤立 ・受診・受療、課題発見 ・退院支援、地域移行支援 ・地域生活支援 ・自殺対策 ・ひきこもり支援 ・児童虐待への対応 ・アルコール依存、薬物依存、ギャンブル依存等の予防や回復 ・家族支援 ・就労（雇用）支援 ・職場ストレス、リワーク支援 ・貧困、低所得、ホームレス支援 ・災害被災者、犯罪被害者支援、触法精神障害者支援 ・その他 ③法制度・サービス <ul style="list-style-type: none"> ・精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 ・障害者基本法、障害者総合支援法 ・障害者差別解消法、障害者虐待防止法 ・医療観察法 ・生活保護制度、障害年金制度、各種手当 ・障害者雇用促進法、労働安全衛生法 ・介護保険法、老人福祉法、高齢者虐待防止法 ・児童福祉法、児童虐待防止法 ・アルコール健康障害対策基本法 ・刑の一部執行猶予制度、覚せい剤取締法等 ・自殺防止対策基本法 ・当事者活動（自助グループ、ピアサポート） ・その他（居住支援制度、生活困窮者自立支援制度、成年後見制度等） ④援助技術 <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワークの過程を通じた援助（ケースの発見、インテーク、アセスメント、プラ
--	---

	<p>ンニング、支援の実施、モニタリング、支援の 終結と事後評価、アフターケア)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別面接 ・ グループワークの展開 ・ ケア会議や関係者会議のコーディネートと マネジメント ・ リハビリテーションプログラムの実施（行 動療法、作業療法、回復支援プログラム） ・ アウトリーチ、コミュニティソーシャルワ ークの展開 ・ 社会福祉調査の実施、計画策定、評価、資源 創出、政策提言 ・ 普及啓発活動、人材育成（住民への啓発、ボ ランティア養成、実習生指導） ・ 記録（個別支援記録、公文書作成、業務（日 誌・月報等）の記録、スーパービジョンのため のレポート作成等） ・ その他
--	---

21 ソーシャルワーク実習指導（90）

ねらい	教育に含むべき事項
<p>①ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義について理解する。</p> <p>②精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。</p> <p>③ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。</p> <p>④精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</p> <p>⑤具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p>	<p>次に掲げる事項について個別指導及び集団指導</p> <p>ア ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導における個別指導及び集団指導の意義</p> <p>イ 精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む。）に関する基本的な理解</p> <p>ウ 実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解</p> <p>エ 精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れる体験</p> <p>オ 現場体験学習及び見学実習</p> <p>カ 実習先で必要とされる精神保健福祉士としてのソーシャルワークに係る専門的知識と技術に関する理解</p> <p>キ 精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解</p> <p>ク 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（精神保健福祉士法及び個人情報保護法の理解を含む。）</p> <p>ケ 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解</p> <p>コ 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成</p> <p>サ 巡回指導（訪問指導、スーパービジョン）</p> <p>シ 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成</p> <p>ス 実習の評価全体総括会</p>

22 ソーシャルワーク実習 (210)

ねらい	教育に含むべき事項
<p>①ソーシャルワーク実習を通して、精神保健福祉士としてのソーシャルに係る専門的知識と技術の理解に基づき精神保健福祉現場での試行と省察の反復により実践的な技術等を体得する。</p> <p>②精神疾患や精神障害、メンタルヘルスの課題をもつ人びとのおかれている現状に関する知識をもとに、その生活実態や生活上の課題についてソーシャルワーク実習を行う実習先において調査し具体的に把握する。</p> <p>③実習指導者からのスーパービジョンを受け、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</p> <p>④総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。</p>	<p>①学生は、精神科病院等の病院での実習において、患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受けること。</p> <p>ア 受診前や入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助</p> <p>イ 退院又は地域移行・地域定着支援に向けた、患者及びその家族への相談援助</p> <p>ウ 入院患者と外来患者及びそれらの家族への多職種連携による支援</p> <p>エ 病院外の関係機関・団体及び地域住民との連携を通じたソーシャルワーク</p> <p>②学生は、精神科診療所での実習において患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受けること。</p> <p>ア 受診前や治療中の患者及びその家族への相談援助</p> <p>イ 日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及びその家族への相談援助</p> <p>ウ 外来患者及びそれらの家族への多職種連携による支援</p> <p>エ 地域の精神科病院や関係機関・団体及び地域住民との連携を通じたソーシャルワーク</p> <p>③学生は、障害福祉サービス事業所や行政機関等、及び精神科病院等の医療機関の実習を通して、次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受けるものとする。</p> <p>ア 利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体・住民やボランティア等との基本的</p>

	<p>なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成</p> <p>イ 利用者理解と相談支援ニーズの把握及び相談支援計画の作成</p> <p>ウ 利用者やその関係者（家族・友人・近隣住民等）との相談支援関係の形成</p> <p>エ 利用者やその関係者（家族・友人・近隣住民等）への権利擁護及び相談支援（エンパワメントを含む。）とその評価</p> <p>オ 精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする相談支援におけるチームアプローチへの参加</p> <p>カ 精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務の意味の考察と遵守</p> <p>キ 施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定の遵守と組織の一員としての役割と責任への自覚</p> <p>ク 施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の観察</p> <p>ケ 当該実習先が地域社会で果たす役割の考察と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発場面の観察</p> <p>コ 実習先施設・機関や所属地域における精神保健福祉向上のための課題発見と政策提言に関する考察</p> <p>サ 実習体験及び学習成果の考察と記述、プレゼンテーション 実習総括と精神保健福祉士としての学習課題の明確化、及び研鑽計画の立案</p> <p>4 学生は、実習体験と考察を記録し、実習指導者によるスーパービジョンと、ソーシャルワーク実習指導担当教員による巡回指導及び帰校日指導等を通して、実習事項について個別指導や集団指導を受ける。</p> <p>5 実習指導担当教員は、巡回指導等を通して</p>
--	---

	実習指導者との連絡調整を密に行い、学生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行うものとする。
--	---